

サステナブルな繊維産地づくりについて懇談



3月度議員懇談会を3月1日午前11時から福井商工会議所ビルで開催し、78名が出席した。

開会に先立ち、2月16日に逝去された伊東忠昭前会頭の冥福を祈り、出席者全員で黙祷を行った。

開会の挨拶に立った八木会頭は、伊東前会頭について「就任直後からコロナ禍で社会情勢が一変する中、中小・小規模事業者を守り抜くという強い想いを持ち、特別相談窓口の設置や給付金の申請支援などに懸命に取り組んでいただいた」と功績を偲んだ。

また、活動指針であった「連携・協働」を体現すべく、令和2年に県・市と共に設置した県都にぎわい創生協議会について、「まちなかの将来像につ



伊東前会頭の功績を偲ぶ八木会頭

いての議論を経て、現在の県都グラウンドデザインや新幹線開業プロジェクトに結びついている」と振り返った。その上で「先人達が一步一步積み上げてきた福井の街を良くして、次の世代に繋げることが今を生きる我々の役割だと話されていた」と語り、自身もその気持ちを受け継ぎ、更に磨きをかけて、次の世代に引き継いでいきたいと決意を示した。

続いて懇談に移り、松川レピヤン(株)の松川享正取締役から「サステナブルな繊維産地づくりに向けたMADE BYの挑戦」と題して講演が行われた。「MADE BY」はコロナ禍の中、業態の垣根を越えてマスク製造に取り組んだことをきっかけに、令和3年4月に県内の繊維関連企業6社で組織された企業連携ネットワークである。

同年11月には、メンバー企業がそれぞれの顧客を招いての工場見学会を開催。モノづくりの工程を五感で感じてもらうとともに、生産者との懇親の機会や製品のサンプル作り体験を通じて繋がり強化を図った。この見学会をきっかけに、有名ブランドとのコラボグッズの商品化にも繋がっている。

また、繊維産地の福井にこだわり一貫生産することで、資材の運送にかか

るCO2(カーボンフットプリント)の削減や、地域内における繊維端材のリサイクル、トレーサビリティの明確化などを目指している。

今後に向けて松川氏は「産地ならではの『つながりを強み』にして、サステナブルなモノづくりと地域ブランディングに取り組んでいきたい」と力強く想いを語った。



サステナブルな繊維産地づくりについて講演する松川氏

次に、福井の体験型観光を紹介する「福井旅の体験手帖ふくのね」の参加者アンケート等に基づき、魅力的なプログラムを表彰する「ふくのねアワード」の発表が行われ、大賞に選ばれた大安禅寺の高橋玄峰副住職に八木会頭から表彰状が贈られた(ふくのねアワードの詳細は6頁を参照)。

事業開催結果

2.13 第46回新商品・ 新サービス合同プレス発表会 担当/会員サービス課



新商品・新サービスをメディア関係者向けに発表する合同プレス発表会を開催し、6社が新商品を発表した。発表された商品は社会性に富んだり、国内や県内初であったりと、いずれも特徴的な商品であり、参加者は新商品の開発背景や強みなどを存分にアピールした。

参加企業/6社
会場/福井商工会議所ビル コンベンションホール

2.6~7 海外展開 チャレンジセミナー 担当/地域事業・観光振興課



東南アジアでのビジネス展開を目指す企業を対象に、同地域の現状や魅力、ポストコロナを見据えた海外展開戦略について解説。特に、経済成長が続くベトナムは進出先として人気が高く、サプライチェーンの再編においても今後さらに注目していく必要があると説いた。

講師/専修大学 商学部 教授 池部 亮 氏
参加者/46名
会場/福井商工会議所ビル国際ホールおよびオンライン

2.27 総務部長・担当者交流会 担当/会員サービス課



(株)辻広組の辻広副社長より、同社で取り組んでいる効果的な若年層の採用活動の事例を紹介いただいた。また、後半のグループディスカッションでは、学生・若者目線の企業PR(採用)と従業員が長く働くために必要なこと(定着)について、活発な意見交換が行われた。

講師/(株)辻広組 取締役 副社長 辻広 昌平 氏
参加者/29名
会場/福井商工会議所ビル 国際ホール

2.8 新春経済講演会 担当/金融・会計相談課



「2023年世界経済・日本経済の展望」をテーマに、トップエコノミストである神田慶司氏にご講演いただいた。神田氏は今年の日本経済について、企業の賃上げ率が重要となると語り、中小企業の生産性低迷や働き手の手取り所得の伸び悩みなどが課題であると指摘した。

講師/(株)大和総研 経済調査部 日本経済調査課長
シニアエコノミスト 神田 慶司 氏
受講者/228名
会場/福井商工会議所ビル コンベンションホール及びオンライン